投稿規定

投稿規定が改定されました。
令和8年5月1日以降の投稿に適用します。

（令和８年４月30日改定）

1．医療検査と自動化（日本医療検査科学会誌）に投稿される論文は，臨床検査に関する新知見（自動化に限定せず機器・試薬の検討でも可）のあるもので，他誌に発表されていないものとする。他誌に投稿中の論文も受け付けない。すでにその内容の一部を学会などで発表したものは，その旨を論文末尾に記載する。

2．投稿者（連名者も含む）は本学会の会員に限る。連名者は臨時会員（論文投稿用）でも可とする。

3．投稿論文の種類は，原著，技術，症例，短報，総説とする。
機器・試薬の検討は技術へ投稿されたい。原著は，技術の開発・改良，臨床的評価など一歩進めたオリジナリティーのあるもの，または，他の機器・試薬との比較検討を詳細に行い，臨床検査の進歩に寄与するものとする。症例は検査値が臨床的または技術的に興味ある報告とする。

4．投稿にあたっては，本誌の原稿作成要領に従う。論文投稿に際しては，（一社）日本医療検査科学会「医学研究の利益相反（COI）に関する指針に従って，筆頭著者およびCorresponding author（連絡責任者）は「医療検査と自動化　COI申告書」（様式2-A または様式2-B）を提出しなければならない。また，指定の著者チェックリストを添付する。規定に沿わない場合は，返却あるいは訂正を求めることがある。また，COI 状態について，論文末尾にその旨を明記すること。

5．査読および修正論文の再投稿：投稿論文は，いずれも編集委員会の審査により論文の種類（原著，技術など）および採否を決定する。査読の結果，「修正」が指示された場合は，指摘事項をすべて修正した上で，指定された期限内に修正論文を再提出しなければならない。修正論文を提出する際は，査読者からのコメントに対する回答書を別途作成し，修正箇所を明記した上で提出すること。指定された期限内に修正論文が再提出されない場合，投稿は取り下げられたものとみなす。再提出された論文は，再度査読が行われ，最終的な採否が決定される。

6．投稿論文の著作権は日本医療検査科学会に帰属するものとする。

7．Corresponding author（連絡責任者）を表紙に明記する。Corresponding authorは論文の審査過程に関わる連絡担当者となるほか，当該論文の責任を負う。
オーサーシップの基準としては下記の４条件を満たしている場合[1)]とする。
1）　論文の構想，デザイン，データの収集，分析と解釈において相応の貢献をした。
2）　論文作成または重要な知的内容に関わる批判的校閲に関与した。
3）　発表原稿の最終承認をした。
4）　論文のいかなる部分においても，正確性あるいは公正性に関する疑問が適切に調査され，解決されることを保証する点において，論文の全側面に責任があることに同意した。
オーサーシップの基準を満たさない貢献者は，著者としてではなく，貢献者として，謝辞に記載する。謝辞に記載する際は，個別に，あるいは，「臨床調査者」「参加調査者」の見出しのもとに記載し，貢献内容に関して「科学的助言」「データ収集」「論文作成・校閲」のように明記する。
ギフトオーサーシップ，ゲストオーサーシップ，ゴーストオーサーシップは認められない。

8．研究倫理に関して：ヒトを対象とした臨床研究に関する論文はヘルシンキ宣言に沿ったものであること。また，人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省，厚生労働省）を遵守すること。遺伝学的検査に関しては，「ヒトゲノム遺伝子解析研究に関する倫理指針」（文部科学省，厚生労働省，経済産業省）に従うこと。臨床検査を終了した検体を用いた研究に関しては，「臨床検査を終了した残余検体（既存試料）の業務，教育，研究のための使用について 日本臨床検査医学会の見解 」（2018年１月公表（2021年改訂），日本臨床検査医学会ホームページから閲覧可能）を参照のこと。当該研究が各施設内の倫理委員会等の承認のもとに行われたことを明記する。動物実験については，「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン」（日本学術会議）に従うこと。

9．論文投稿における不正行為およびその措置：この規定は，日本医療検査科学会 倫理委員会，COI委員会が定める内規に基づき，論文投稿における公正かつ適切な行為を担保するために策定される。投稿者および共著者は，以下の規定を順守すること。
1）　研究成果発表に関する本学会の見解
本学会では，二重投稿を禁止とする。二次投稿については，著作権上の問題がない場合に限り，すでに公開されている部分を引用として明示したうえでの投稿を認める。ただし，既報との研究内容の重複率が30％以上の場合は，これを認めない。サラミ論文に関しては，編集委員会

Presented by Medical*Online

でその可否を審議し，答申内容に基づいて理事会において最終的に決定する。

A） 二重投稿

同一の内容の論文を，同一言語または複数言語を問わず，同一の査読期間内に，複数の学会誌に同期間内に投稿することを指す。ただし，プレプリントサーバーへの公開はこれに該当しない。

B） 二次投稿

既に論文として公表した研究成果を，査読期間を含む時間的な重複がない状態で，他の学会に 投稿することを指す。

C） サラミ論文

本来１つの研究成果としてまとめられるべき内容を，複数の小規模な研究に分割して，別個の論文として投稿することを指す。

2） 論文発表に関する責任の所在

投稿された論文または演題登録された抄録に関し，著作権，プライバシー，倫理的問題，その他の権利および利益の侵害が生じた場合，その責任は全著者が負うものとする。

また，採択された論文および演題の抄録掲載に起因して，著者または演者に不利益が生じた場合においても，本学会は責任を負わない。

3） 禁止事項に対する罰則規定

A） 特定不正行為（捏造，改ざん，盗用）が判明した場合，審査中であれば論文を却下し，掲載 後であれば，当該論文を撤回し，その旨を誌上等にて告知する。

B） 当該論文の筆頭著者および責任著者は，その後５年間，本学会への論文投稿および学会発表を禁止とする。

C） 編集委員会の判断により，悪質性が高いと認められた場合には，理事会の議を経て，以下のような措置を講じることがある：

— 著者の雇用主や所属団体への告知および調査依頼

— 他誌への周知，

— 厚生労働省への報告等

上記 A）～C）に加え，一般社団法人日本医療検査科学会定款 第３章第９条に基づく処分を検討する。

10. 内容の誤りへの対応

内容に誤りがあり，論文の結果，解釈，結論の方向性や有意性が変わらない場合は，「訂正」の掲載にて対応する。誤りが深刻で，論文の結果や結論が無効となる場合は，発表論文の「撤回」が必要となる。

参考文献

１）ICMJE（International Committee of Medical Journal Editors; 医学雑誌編集者国際委員会）
日本医学雑誌編集者会議，医学雑誌編集ガイドライン 2022，日本医学会，2022 年３月

Presented by Medical*Online

原稿作成要領

1．投稿原稿はA４判用紙にWordファイルで作成した１行40字×１ページ40行（1600字）の原稿　をプリントアウトしたものを原則とする。書体は日本語は明朝体，英語はCentury体を本文の基本書式とし，図表はExcel，WordまたはPowerPointファイルで作成する。欧文と数字は，１文字のときは全角，２文字以上は半角で入力する。数字と単位の間には半角スペースを入れて記述する。原稿の表紙には次の事項を記載する。

1）　表題（和文および英文）　　3）　所属機関名とその住所（和文および英文）

2）　著者名（和文および英文）　　4）　原著，技術，症例，短報，総説いずれを希望かを明記

（英文の例：Koki MOTEGI）

2．原著原稿は次の順序に配列することが望ましい。

⑴表紙（１．参照）⑵本文（ｉ参照），⑶表，⑷図（写真など）とその説明

ｉ．本文は，要旨（英文で200語以内），キーワード（英文で５項目内）を記載し，改ページする。次ページより，はじめに，材料および方法（測定機器，測定原理など），成績，考察，結論，謝辞，文献の順序に記載する。

ⅱ．文献は必要最低限にし，引用順に番号をつけ，本文最後に一括して記載する。本文中の引用箇所に肩付きで，右片括弧にいれて記載する。文献の記載法を**別表１**に示す。

3．技術原稿もこれに準ずる，但し英文要旨に替えて和文要旨を要する。

4．原著の規定頁数は原則として１編につき刷り上がり８頁以内，技術および症例は６頁以内とする（１頁分は1600字に相当する）。

図と表は，あわせて10枚以内とする（図表は１枚，400字に相当する）。

短報は刷り上がり２頁以内，図と表はあわせて３枚以内とする。

	英文要旨	和文要旨	本文原稿枚数（１枚1600字）	図　表	刷上り頁数
原　著	200語	−	8 枚以内	10枚以内	8 頁以内
技　術	−	250字	6 枚以内	10枚以内	6 頁以内
症　例	−	250字	6 枚以内	10枚以内	6 頁以内
短　報	−	−	2 枚以内	3 枚以内	2 頁以内
総　説	200語	−	8 枚以内	10枚以内	8 頁以内

上記の規定頁数を超過した場合はその分の実費を徴収する。

5．文章は，口語体，当用漢字，新かな遣いとし，横書き。句読点，括弧は１字分を要し，改行のさいは，冒頭１字分あける。外国人名は原語とし，地名は適宜とする。外来語で日本語化したものはカタカナで，ほかは外国語綴りのままとする。

6．図・表タイトルの内容，説明は英文で，**別紙にまとめて**記載する。原則として原図を送付すること。また，図・表・写真は１枚ごと別紙にして通し番号を入れ，本文原稿の欄外に挿入箇所を明示する。当方でトレースを必要とする場合は，実費を徴収する。

7．度量衡の単位は漸次SI単位による表現を採用するが，差し当り**別表 2** に示す。

8．HbA1cの表記については，日本糖尿病学会の指針に基づき，NGSP値を用い，HbA1c値の初出にNGSP値であることを明記する。

9．投稿原稿が英文の場合も和文の規定に準ずるが，この際には和文抄録（800字以内）も示す。

10．別刷は最低50部として実費を請求する。別刷の部数は編集委員会から著者校正時に問い合わせる。

11．投稿論文は，下記のE-mailアドレスへメールに添付して送付すること。受領後，編集委員会より１週間以内に受領のメールを返信する。

〒113-0033　東京都文京区本郷2-31-2（笠井ビル）

「医療検査と自動化」編集委員会宛

Tel．03-3818-3205／Fax．03-3818-6374　E-mail:t-gaku@gk9.so-net.ne.jp

Presented by Medical*Online

別表 1　引用文献

著者名は３名以内の場合は連記，４名以上は第４著者以降をほか（英文の場合はet al.）とする。英文は姓，名（イニシャル）の順とする。雑誌名は略記とする。

〈雑誌〉

著者名．論文タイトル．雑誌名　発行年（西暦）；巻：頁一頁（通巻頁で最初と最後）。

例）奈良信雄，室橋郁夫，松本文枝ほか．マイコプラズマ感染症の診断における DNA プローブ法の有用性に関する研究．感染症誌 1991；65：1527-1532

Thue G,Gordon MK,Gerecke DR,et al. Survey of office laboratory tests in general practice. Scand J Prim Health Care 1994；12：77-83.

〈単行本〉

著者名，論文タイトル，編者名，書名，版，出版社名；発行地，発行年（西暦）頁－頁.

例）三橋知明, 甲状腺ホルモン受容体異常, 中井利昭ほか編, 遺伝子診断実践ガイド, 第１版, 中外医学社；東京, 1995；185-1888.

Goldfin A Adrenal medulla.In：Greenspan FS,Baxter JD, eds, Basic & Clinical Endocrinology,4th ed,Appleton & Lange；Conneticut,1994；370-389.

（抄録集）

発表者名．演題名．抄録集名（学会誌名 発行年（西暦）巻）：頁

例）佐藤勇樹，近藤崇，盛合美加子ほか．新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）新規検出法の検出率に関する検討．日本医療検査科学会第52回大会抄録集（医療検査と自動化 2020；45(4)）：446.

（ただし，基本的には本学会の抄録集より引用することとする）

別表 2　度量衡の単位

a）接頭語には次のものを用いる。

10^{-18} = a（atto）	10^{-6} = μ（micro）	10 = da（daca）	10^{9} = G（giga）
10^{-15} = f（femto）	10^{-3} = m（milli）	10^{2} = h（hecto）	10^{12} = T（tera）
10^{-12} = p（pico）	10^{-2} = c（centi）	10^{3} = k（kilo）	10^{15} = P（peta）
10^{-9} = n（nano）	10^{-1} = d（deci）	10^{6} = M（mega）	10^{18} = E（exa）

b）接頭語を二重に用いない。μμg（γγ）→pg

c）長さに関する単位はmμ→nm，Å→0.1nm（あるいは100pm），μ→μmなどとする。

d）容量の単位は「L」を用い，dm^3，cc，cm^3などを用いない。dm^3→L，cc→mL，mm^3→μLなどとする。

e）濃度に関する単位は，モル濃度はmol/Lとし，慣用としてmol/LをMとしてもよい。その他はmg/dL，g/dL，g/Lなどとするが，分母を「L」におきかえることが望ましい。7 g/dL→70g/L，100mg/dL→ 1 g/L（1,000mg/L）原則として分母に接頭語をつけない。分子量の確定しているものは漸次モル濃度におきかえることが望ましい。

f）mol/min/L→mol/（$minL^{-1}$），またはmol $min^{-1}L^{-1}$とする。

追記

標準化に関連した用語の定義や意味については「JCCLS 用語委員会：臨床検査関係 ISO国際規格の用語とその邦訳語（ver.1.1）．日本臨床検査標準協議会会誌 18(1)：3-41，2003」を参照する。なお，CLSI（旧NCCLS）のwebsite（http://www.clsi.org）でも検索できる。

Presented by Medical*Online

様式 2-A（論文投稿用）

医療検査と自動化（日本医療検査科学会誌）ＣＯＩ申告書
(筆頭著者・Corresponding author(連絡責任者)が企業に属さない場合)

著者名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（共著者を含む）

論文題名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（筆頭著者・Corresponding author(連絡責任者)について、投稿時から遡って過去２年間以内での論文内容に関係する企業・組織または団体との COI 状態を記載）

項目	該当の状況	有であれば著者名：企業名などの記載
① 本人あるいは配偶者、一親等の親族の営利を目的とする企業・法人組織・団体の社員，役員，顧問職への就任 1 つの企業・組織や団体からの報酬額が年間 100 万円を超えた場合.	有 ・ 無	
② 株式の利益 1 つの企業から年間 100 万円を超えた場合，あるいは当該株式の 5%以上保有	有 ・ 無	
③ 特許使用料 1 つにつき年間 100 万円を超えた場合	有 ・ 無	
④ 講演料 1 つの企業・団体からの年間合計 100 万円を超えた場合	有 ・ 無	
⑤ 原稿料 1 つの企業・団体から年間合計 100 万円を超えた場合	有 ・ 無	
⑥ 研究費・助成金などの総額 1 つの企業・団体からの研究経費を共有する所属部局（講座，分野あるいは研究室など）に支払われた年間総額が 100 万円を超えた場合	有 ・ 無	
⑦ 奨学（奨励）寄付金などの総額 1 つの企業・団体からの奨学寄付金を共有する所属部局(講座,分野あるいは研究室など)に支払われた年間総額が 100 万円を超えた場合	有 ・ 無	
⑧ 企業などが提供する寄付講座 （企業などからの寄付講座に所属している場合に記載）	有 ・ 無	
⑨ 旅費，贈答品などの受領 1 つの企業・団体から年間 5 万円を超えた場合	有 ・ 無	

（本 COI 申告書は論文掲載後２年間保管されます）

（申告日）　　年　　月　　日

筆頭著者・Corresponding author(連絡責任者)（署名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ㊞

（何れかに○）

＊筆頭著者、Corresponding author(連絡責任者)は各々記載すること

Presented by Medical*Online

様式 2-B（論文投稿用）

医療検査と自動化（日本医療検査科学会誌）ＣＯＩ申告書
(筆頭著者・Corresponding author(連絡責任者)が企業に嘱する場合)

著者名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(共著者を含む)

論文題名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

私は(○○株式会社)の社員であり、本研究に関わる費用等は所属企業の経費等にて支払われています。
（上記を参考に記載）

(本 COI 申告書は論文掲載後２年間保管されます)

(申告日)　　年　　月　　日

筆頭著者・Corresponding author(連絡責任者)（署名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ㊞
(何れかに○)

＊筆頭著者、Corresponding author(連絡責任者)は各々記載すること

Presented by Medical*Online

（本用紙はコピーして使用してください）

「医療検査と自動化」論文投稿時の著者チェックリスト Ver.2

1．投稿者は（一社）日本医療検査科学会会員であるか …… □

2．共著者で非会員がいる場合は「臨時会員入会届」を提出済であるか …… □

3．同じ内容の論文を他誌に発表していないか …… □

4．研究倫理に関して投稿規定に沿っているか …… □

5．論文の内容が施設内倫理委員会の承認を必要とする際は、
承認を得ている旨、明記しているか …… □

6．論文の体裁について

(a) 表紙に (1)表題、(2)著者名、(3)所属機関名とその所在地
(4)論文の種類（原著、技術、症例、短報）を明示しているか …… □

(b) 原稿の字数は原稿作成要領に沿っているか …… □
（原著：本文は A4 判用紙（40 字×40 行＝1600 字）8 枚以内、図表は 10 枚以内、技術・症例：本文は 6 枚以内、図表は 10 枚以内、短報：本文は 2 枚以内、図表は 3 枚以内）

(c) 論文の体裁（配列）は原稿作成要領に沿っているか …… □

(d) 原著の場合、要旨は英文で記載されているか …… □

(e) 図表のタイトル、説明文は英文で記載されているか …… □

(f) 本文中に図表の挿入箇所を明示しているか …… □

(g) 引用文献の記載方法は原稿作成要領に沿っているか …… □

(h) 度量衡の単位は原稿作成要領に沿っているか …… □

(i) 原稿にページ数を記載しているか …… □

(j) Corresponding author（連絡責任者）および連絡先を記載しているか …… □

7．全著者は本論文投稿への関与を確認し、自署して下さい。

著　者　名	会員番号 または臨時会員

著　者　名	会員番号 または臨時会員

付記 1. 論文の内容は臨床検査に関する新知見のあるもので、他誌に未発表のものに限ります。
2. 掲載された論文の著作権は全て(一社)日本医療検査科学会に帰属します。
3. 論文の表紙にCorresponding author(連絡責任者)および連絡先を記載すること。
4. 会員または臨時会員の登録手続き中の場合は、その旨記載して下さい。

Presented by Medical*Online